令和5年度
「業務成果」品質向上プロジェクト
参考資料

1. アンケート結果（概要）
２～９．項目別のアンケート結果（抜粋）

1．アンケート結果（概要）

国土交通省

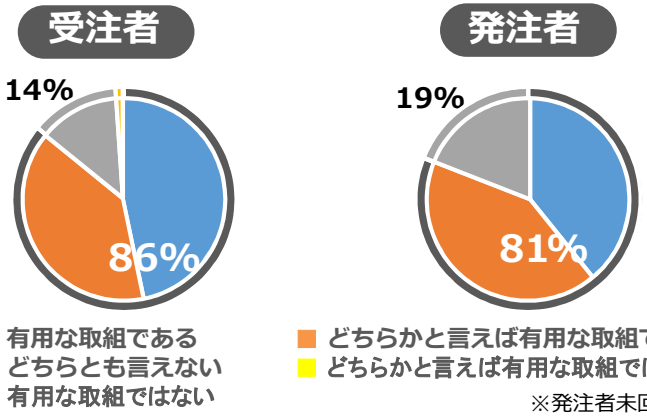
「業務成果」品質向上プロジェクトアンケート結果概要

令和４年度業務を対象に「業務成果」品質向上プロジェクトに関する受発注者アンケート調査を実施

- **対象者**　：［発注者］主任調査員（主任監督員）、調査員（監督員）
  ［受注者］管理技術者（主任技術者）、担当技術者
- **対象業務**　：　測量業務、調査業務（地質含む）、計画業務、設計業務、その他
- **サンプル数**：［受注者］　９２業務、［発注者］　２７５業務　※設問によって未回答があるため、サンプル数と回答数は一致しない場合がある
- **調査期間**　：　令和４年１２月～令和５年１月

プロジェクトについて

- 発注者で約8割、受注者で約8.5割が「（どちらかと言えば）有用な取組である」と回答している
- 一方で「どちらとも言えない」割合は受発注者で１～２割程度ある



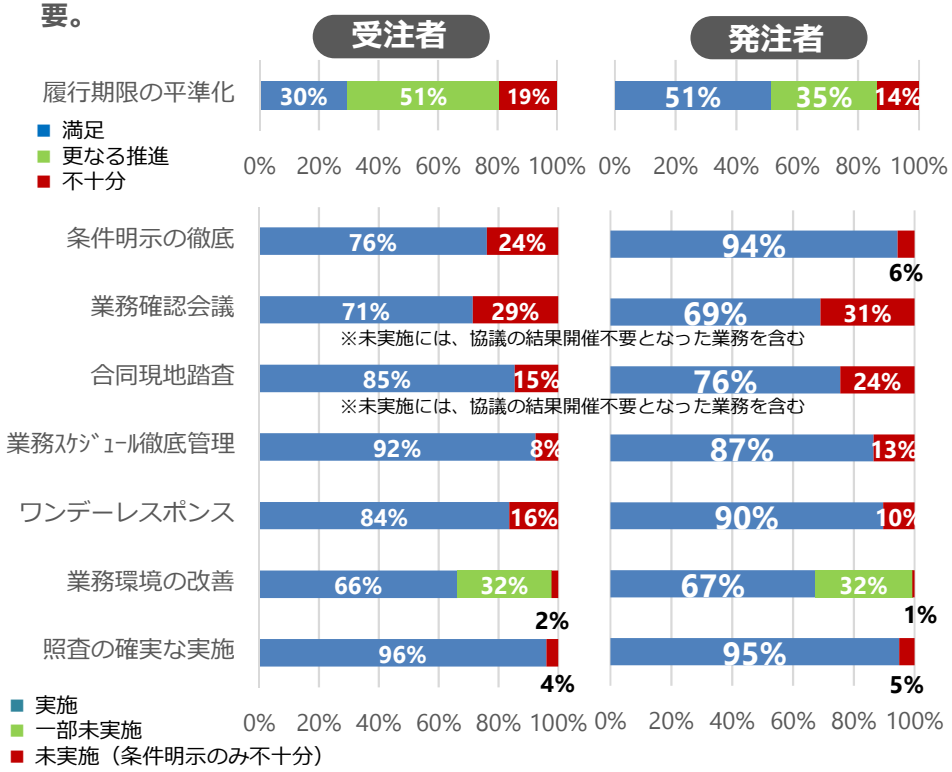
※発注者未回答1業務

区分	有用である	どちらかといえば有用	どちらともいえない	どちらかといえば有用ではない	有用ではない	総計
発注者	107	115	52	0	0	274
受注者	43	36	12	1	0	92
総計	150	151	64	1	0	366

各取組の実施状況では、業務環境の改善など実施率が低く、取組の継続や改善を求められているため、本プロジェクトを継続する。

各取組事項の実施状況

- **履行期限の平準化は「満足」の割合低く、継続して取組が必要。**
- **受注者では、全ての業務で対象となる条件明示の徹底、業務環境の改善の実施率が低く、継続して取組が必要。また、発注者の自己評価としても、業務環境の改善が低い結果であった。これらの重点的な取組が必要。**



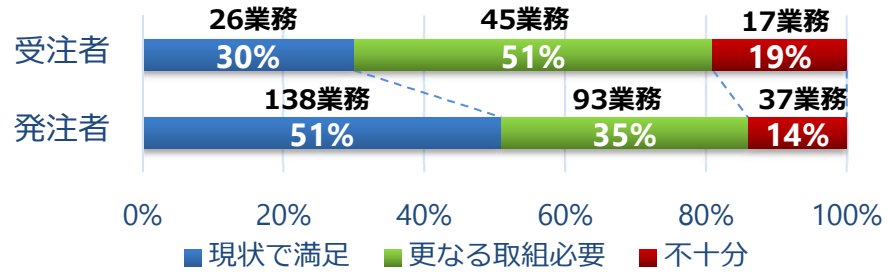
2．アンケート結果（抜粋）　履行期限の平準化

国土交通省

取 組 効 果

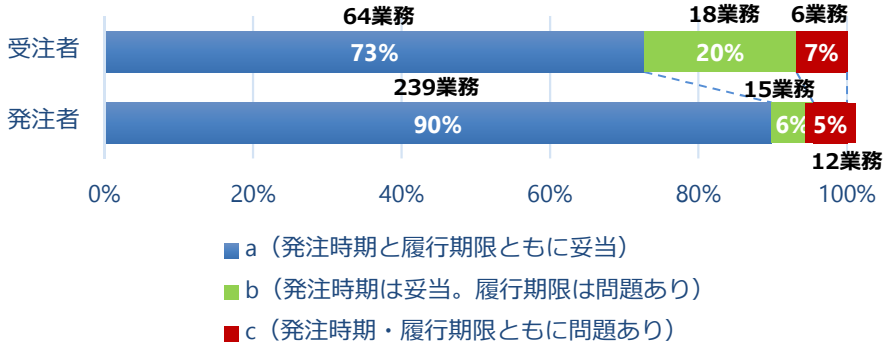
設問：「履行期限の平準化」の取組効果についてお聞きします。

- 取組に対する満足度に差はあるものの、半数以上が「更なる取組が必要」または「不十分」と回答しており、本取組は継続する必要がある。



● 工期設定の妥当性

- 受注者と発注者の間で、妥当との捉え方に大きな差がある。
- 受注者の３割は、工期設定に問題ありと感じている。



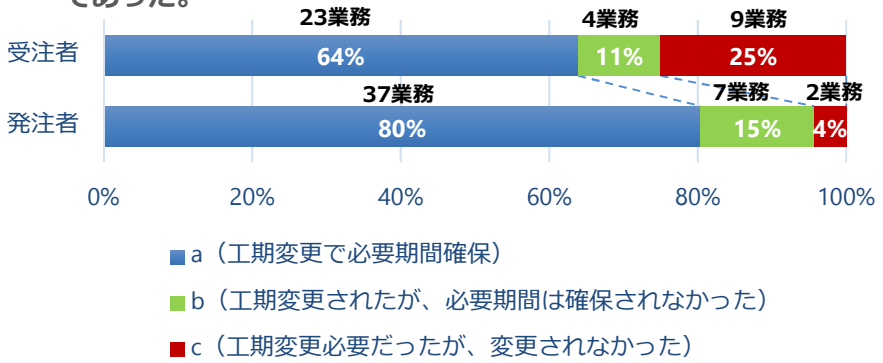
（回答ｂとｃの理由）

➢　受注者
- 早期発注により、次年度業務の手続きと履行期限が重なっている。履行期限の前倒しを検討してほしい。
- 関連業務の遅れにより工期が不足したので、関連業務を考慮した工期設定と発注計画してほしい。
- 業務内容に工期が合っていない。

➢　発注者
- もう少し早期に発注し、十分な工期をとるべきだった。
- 設計業務において、関連する調査測量との調整に時間を要した。
- 工期延伸により、履行期限が年度末になった。
- 履行期限の平準化には、国債発注を増やす必要がある。

● 適切な工期変更の実施

- 工期変更が必要な業務のうち、必要な期間が確保されなかったか或いは変更されなかったという回答が、受注者は発注者の約２倍であった。



※上図集計には、工期変更が必要なかった業務および業務内容に変更がなかった業務は除いている。

（回答ｂとｃの理由）

➢　受注者
- もともと3月工期末であり、延伸は不可能であった。
- 地質調査の遅れを理由にした工期延伸が認められなかった。
- 工期延伸希望したが、繰越不可という理由で認められなかった。
- 次年度の設計ｽｹｼﾞｭｰﾙが決まっており、延伸されなかったと思料。

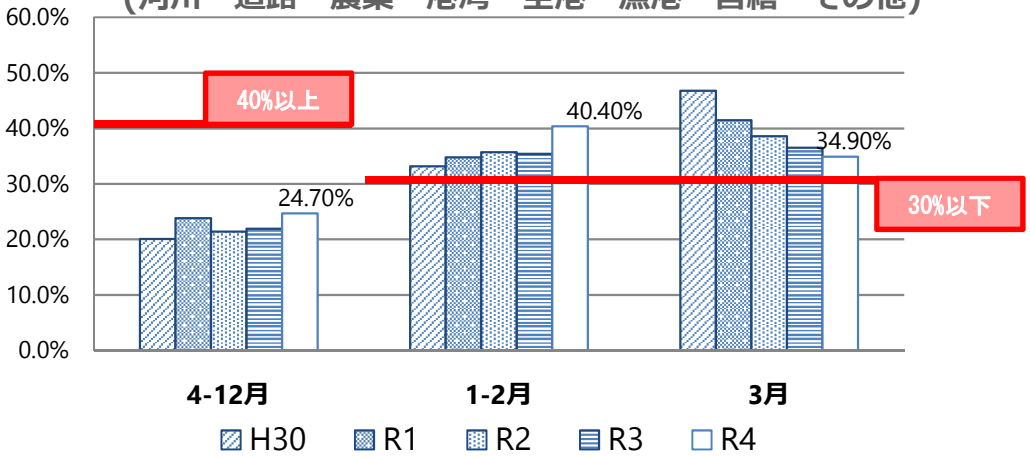
➢　発注者
- 変更協議に時間を要し、指示が遅れた。
- 関連業務との進捗調整が必要で、設計業務単体での適切な履行期間確保は難しい。

国土交通省
北海道開発局

履行期限の平準化の推移

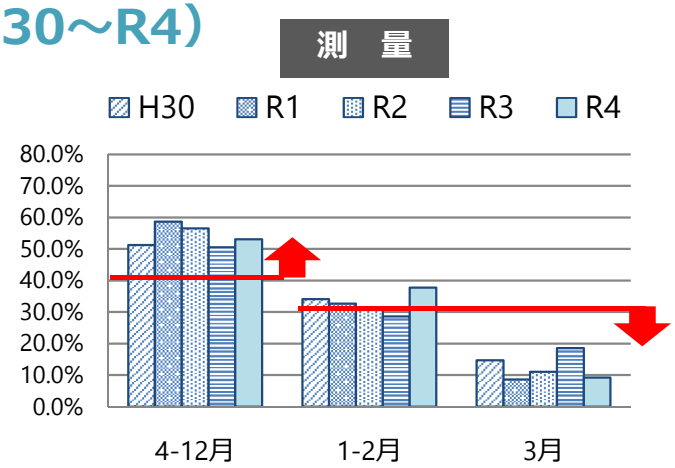
これまでの取組状況（H30～R4）

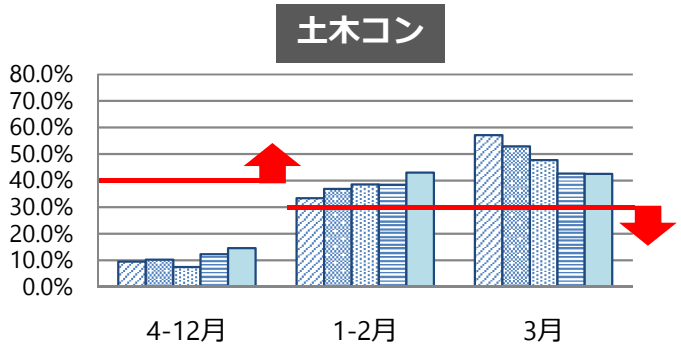
履行期限の平準化の推移
(河川・道路・農業・港湾・空港・漁港・営繕・その他)

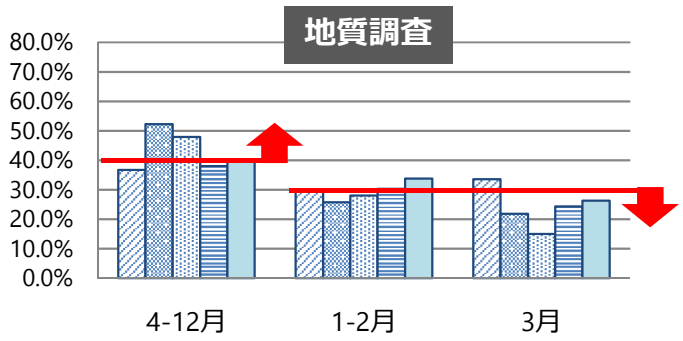


	4-12月	1-2月	3月	繰越
H24	22.8%	23.6%	53.6%	
H25	22.1%	27.5%	50.4%	
H26	21.6%	30.0%	48.3%	
H27	21.0%	37.0%	42.0%	
H28	19.4%	35.4%	45.2%	
H29	20.2%	33.5%	45.4%	0.9%
H30	20.1%	33.2%	46.8%	1.0%
R1	23.8%	34.8%	41.5%	0.2%
R2	21.4%	35.7%	38.6%	4.4%
R3	21.9%	35.4%	36.5%	6.3%
R4	24.7%	40.4%	34.9%	8.7%

■目標値（R4）
４月～１２月　４０%以上
１月～　３月　６０%以下（３月のみ　３０%以下）





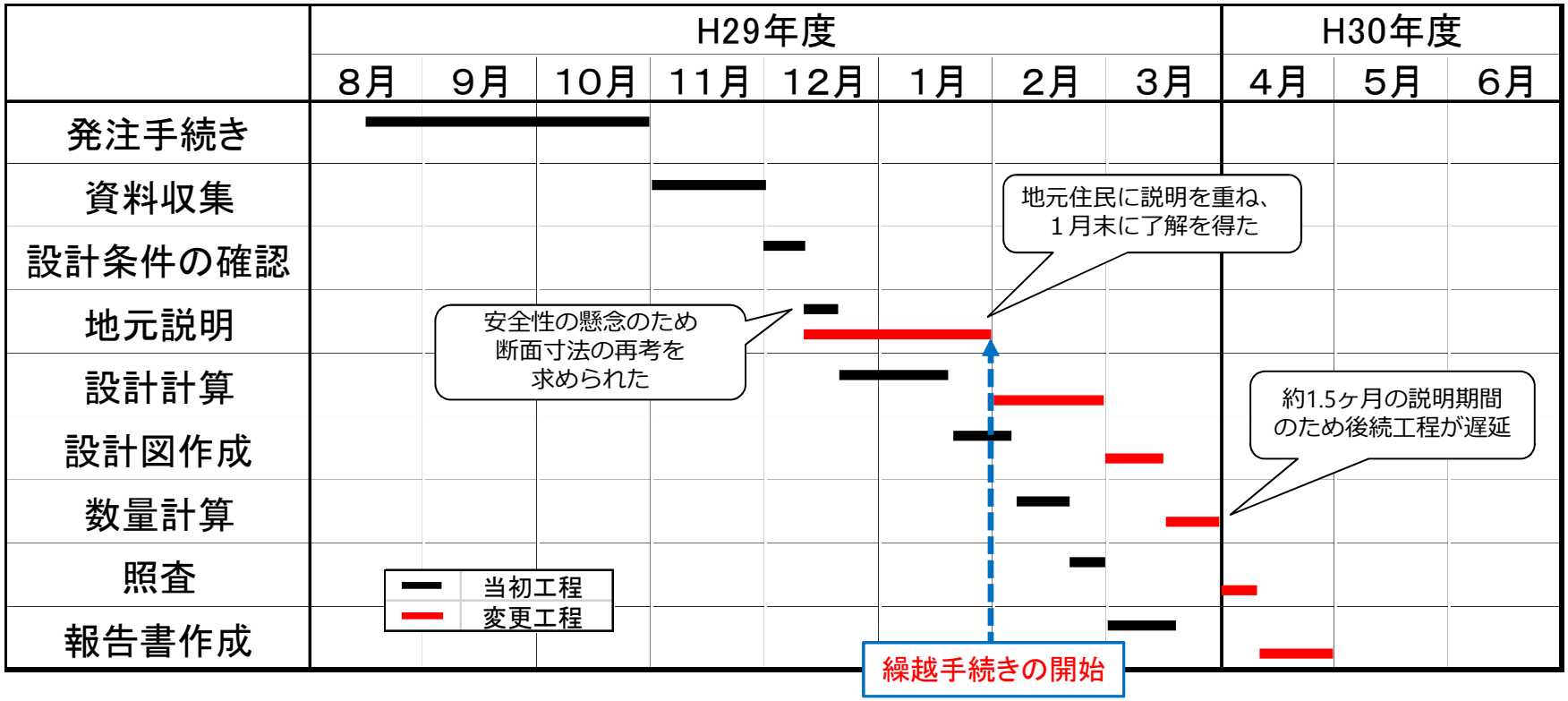


【参考】履行期限の繰越事例（適切な繰越の実施）

国土交通省
北海道開発局

【業務の繰越事例　翌債（契約後）】

○業務契約後、国道と交差する道道の設計条件を確認し、函渠の断面寸法について12月中旬に地元住民へ説明したところ、函渠が設置される交差部の視認性悪化で交通安全性が損なわれることを懸念し、断面寸法の再考を求められた。
○現在の断面で交通安全上問題がないことを整理し、地元住民に理解されるよう説明を重ねた結果、了解を得られたものの、その間約１．５ヶ月を要したため、その後の設計・取りまとめについて、年度内の業務完了が見込めなくなった。

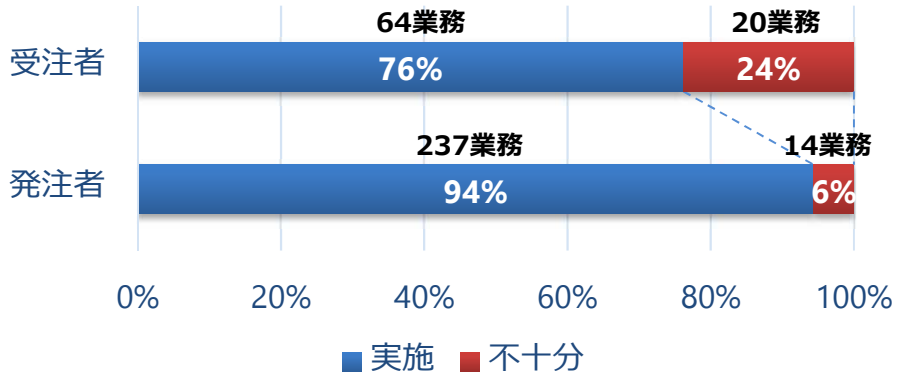


3．アンケート結果（抜粋）　条件明示の徹底

国土交通省

取 組 状 況　　設問：「条件明示の徹底」の取組は実施されましたか？

- 受注者の取組不十分の回答が、発注者の4倍になっており、発注者が十分に条件明示したと考えていたとしても、それが不十分であった可能性がある。
- なお、受発注者ともに、本取組は重要であり継続が必要との意見が多く出ている。

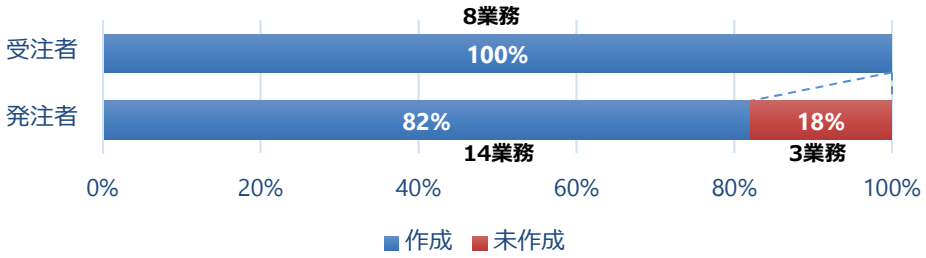


（「不十分」の理由）

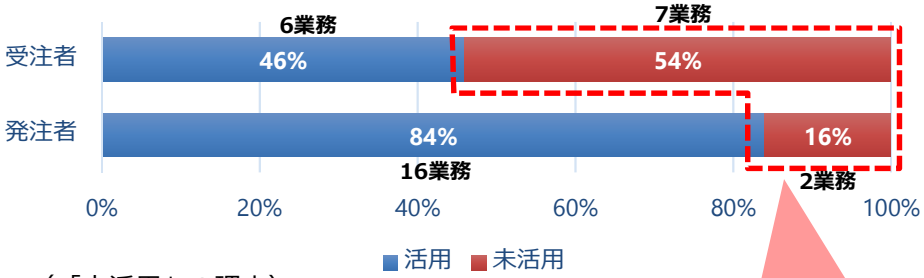
➢ 受注者
- 条件明示がなかった。
- 発注者が、前任から適切な引継がされていない。
- 継続受注のため、受注者から確認した。
- 地質調査も本取組の対象だと理解してなかった。おそらく発注者も同様。

➢ 発注者
- 用地測量では条件明示の取り決めがないため。
- 実勢価格調査は物価状況に左右されるため、条件明示する効果がない。

● 条件明示チェックシートの作成状況（予備設計時）



● 条件明示チェックシートの活用状況（詳細設計時）



作成したチェックシートが有効に活用されていない

（「未活用」の理由）

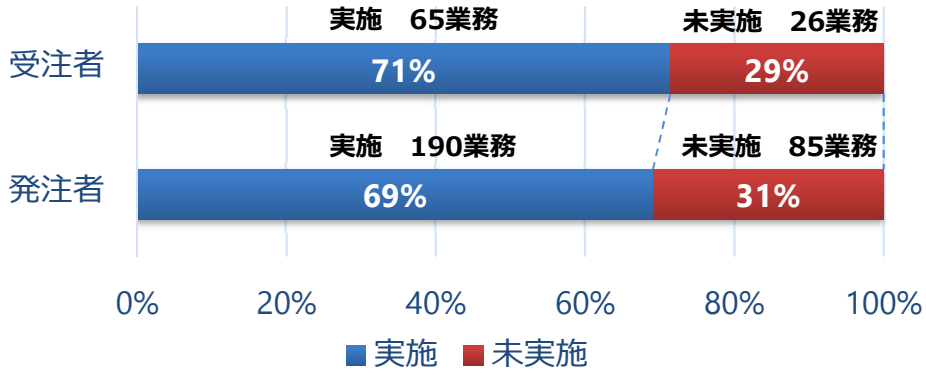
➢ 受注者
- 条件が確定していないため。
- 予備設計で未作成だった。
- 発注者から提示なかった。

4．アンケート結果（抜粋）　業務確認会議

国土交通省

実 施 状 況　　設問：「業務確認会議」は実施されましたか？

- 受発注者ともに、約７割が当該会議を実施しており、意思疎通や手戻り防止に有効との意見が多い。
- 未実施の理由としては、業務内容により必要なかったという意見が多かった。よって、当該会議が必要な業務については、そのほとんどで実施されたものと考えられる。

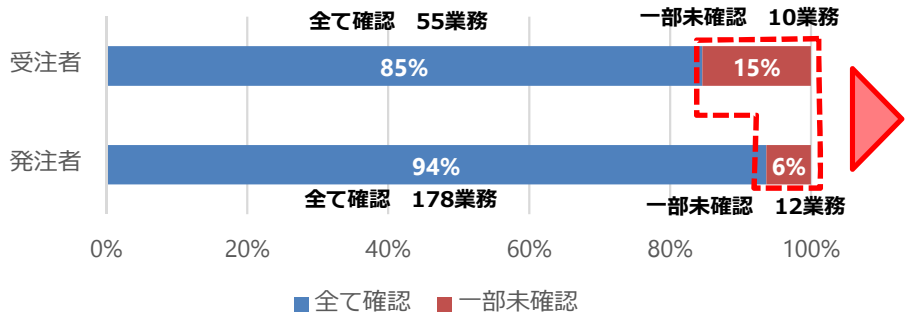


（「未実施」の理由）

➢　受注者
・開催を希望しなかった。特記仕様書にも記載がなかった
・関係者の多い道路の計画系業務で、当該会議は必要なかった。
・前提条件、ｽｹｼﾞｭｰﾙ等は業務打合せで双方了承していたため。

➢　発注者
・課長も受注者も必要としなかった。
・前年度の専門家からのアドバイスに基づく調査のため。
・経年的な調査、測量業務、点検業務なので対象外。

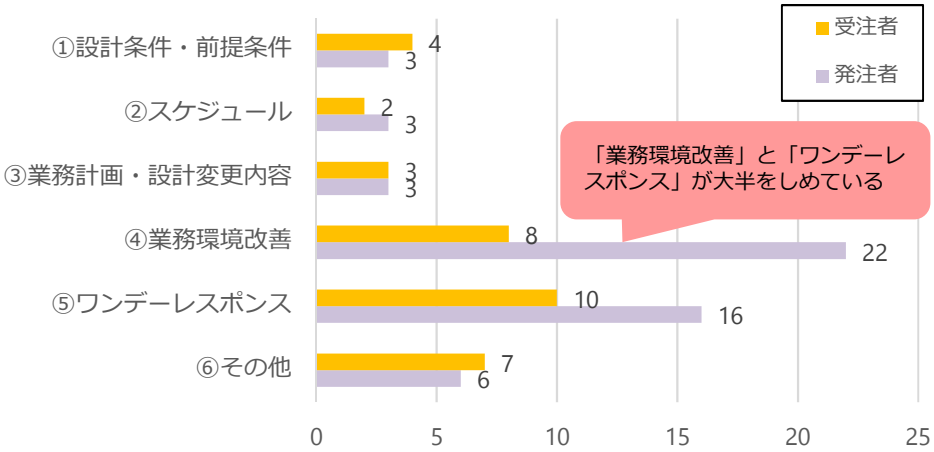
確認項目の実施状況



（「一部未確認」の理由）

➢　受注者
・業務環境改善等を確認する場という認識が受発注者になかった。
・仕様書に記載されていないため、開発局担当者も知らない（意識がない）のではないでしょうか。

一部未確認事項の内訳　（単位：件）



（補足）
・「一部未確認」とは上図①～⑥のいずれかが確認できなかった場合を指す
・複数回答可としているため、一部未確認の業務件数とは一致しない

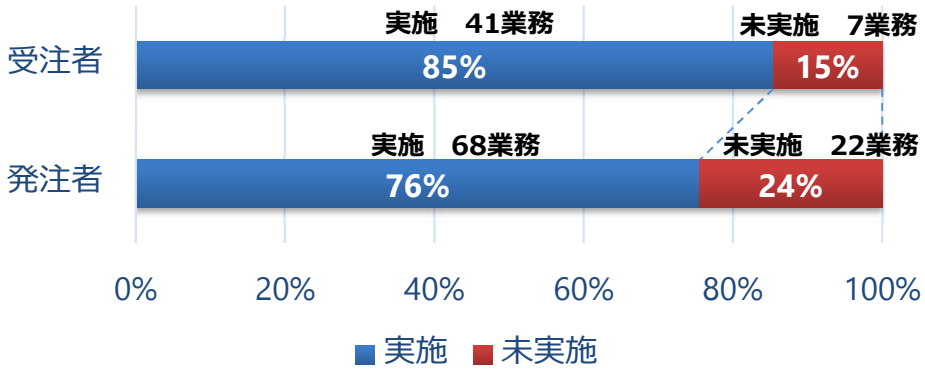
5．アンケート結果（抜粋）　合同現地踏査

国土交通省

開 催 状 況

設問：「合同現地踏査」の対象業務でしたか？また、実施しましたか？

- **受発注者ともに、約８割が合同現地踏査を実施しており、認識共有や問題点確認に有効との意見が多い。**
- **未実施の理由としては、協議により必要なかったという意見が多く、必要な業務は実施されているものと考えられる。**



（「未実施」の理由）

➢　受注者
・積雪及び地権者関係で現地立入が出来なかった。
・前年度も受注していたため。
・附属物点検であり、2巡目点検であった。1巡目点検業務で複数回実施しており、受発注者で共有が図られているため、今回は実施していない。

➢　発注者
・受注者からの実施希望がなかったため。
・継続して業務を実施している箇所であり、協議の結果不要となった。
・実施対象としていたが、協議の結果実施しないことになった。

● その他意見

➢　受注者
・現地で認識を共有し業務計画に反映できるので有効である。
・現地確認が必要なケースは多々あり、具体的な問題点を確認できるため、非常に有効である。
・関連業務との合同開催によって、情報共有が図られた。
・調査系業務では、受注者からの要望で開催することが多く、発注者から積極的に提案してほしい。

➢　発注者
・関連業務と合同で実施することで、設計側が要求する成果について、実施可否等を測量や地質側の見解を聞くことができ、確実な実施に繋がり効果的。
・机上では判断しにくい部分が明確になる。
・標識等の点検だけの場合は、効果は少ない。

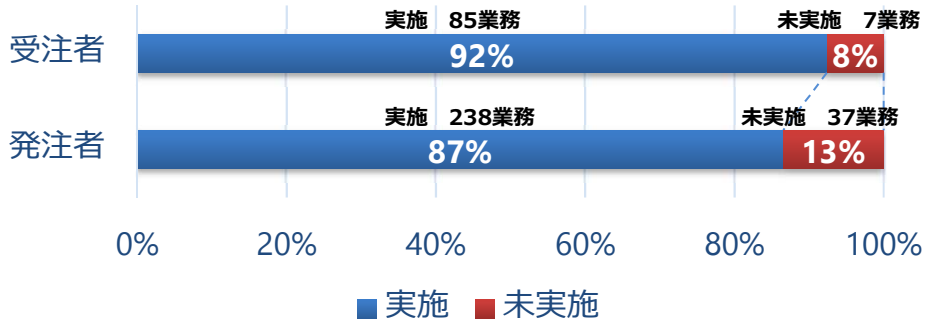
6．アンケート結果（抜粋）　業務スケジュールの適切な管理

国土交通省

取 組 状 況

設問：「業務スケジュールの適切な管理」の取組は実施されましたか？

- 受発注者ともに、約９割が実施しており、工程管理や進捗管理に有効との意見が多かった。
- 一方で、地元調整等が難航し工程遅延となる場合は、発注者による積極的な調整を要望する声もあった。

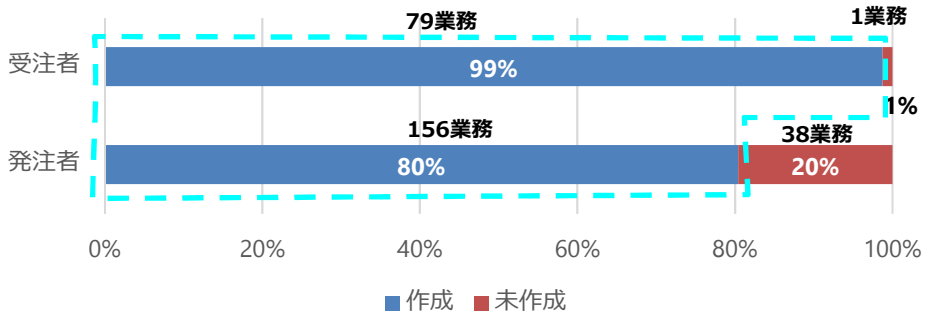


（「未実施」の理由）

➢　受注者
・管理表の作成は行っていないが、メール等による進捗確認。
・特記仕様書に記載がないため。

➢　発注者
・地質調査のため。
・特記仕様書に明示していなかった。

● 業務スケジュール管理表の作成状況

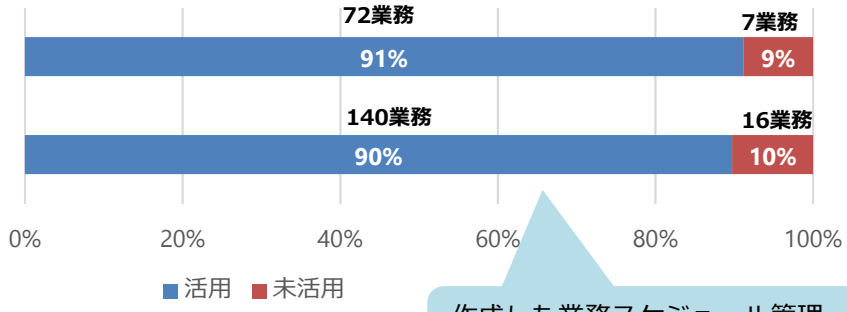


（「未作成」の理由）

➢　受注者
・調査業務ではタスクが少ないので、管理表の必要性が低い。
・形式的なものであり、あまり活用していない。

➢　発注者
・業務工程表で管理可能だった。
・建築設計業務は、この様式の管理表作成は発注条件ではない。

● 業務スケジュール管理表の活用状況



作成した業務スケジュール管理表のほとんどが活用されている

（「未活用」の理由）

➢　受注者
・発注者の調整不足があり、その調整がｺﾝﾄｰﾙﾎﾟｲﾝﾄとなった。
・形骸化している。計画系業務では、変更内容がメインとなることがあり、即時変更にならないと管理表も活用できない。

➢　発注者
・形骸化していて実効性を感じられない。
・毎月の履行報告で実施したため。

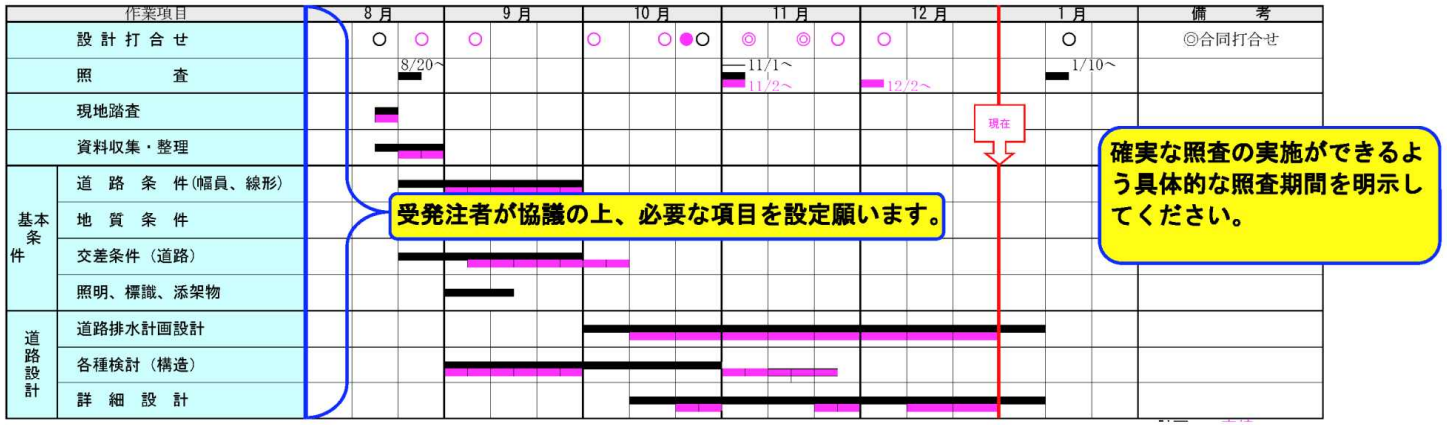
国土交通省
北海道開発局

業務スケジュールの適正な管理
管理表記載例

【記載例】業務スケジュール管理表

業務名	平成00年度 00号△△BP○○詳細設計業務
設計会社名	××株式会社
契約額	¥00,000,000(消費税込み)
管理技術者	○○ ○○ ***@****.co.jp TEL:000-000-0000
担当技術者(主)	△△ △△ ***@****.co.jp TEL:000-000-0000
(副)	×× ×× ***@****.co.jp TEL:000-000-0000
照査技術者	□□ □□ ***@****.co.jp TEL:000-000-0000

現在の状況	<橋梁>成果チェック完了、概要書作成中 <道路>*/*納品に向けて、細部について照査、修正中
現在の課題、問題	<道路>今後、関係者協議が必要
当面の目標、予定	工期内納品
次回打合せ	*/* 00:00～：施工計画、新技術活用検討、技術提案内容の実施状況説明



着手日	作業事項(タスク)	作業者 発注者	作業者 受注者	期限	状況		今後の検討事項・課題・目標 内容	予定	懸案事項	解決策等
	着手時 通知書、経歴書、技術者		○	○/○	済					
○/○	業務計画書、業務カルテ		○	○/○	済					
○/○	現地踏査報告		○	○/○	済					
○/○	身分証明書の発行	○					完了時に返却	○/○		
○/○	変更時 変更業務計画書、業務カ		○		－					

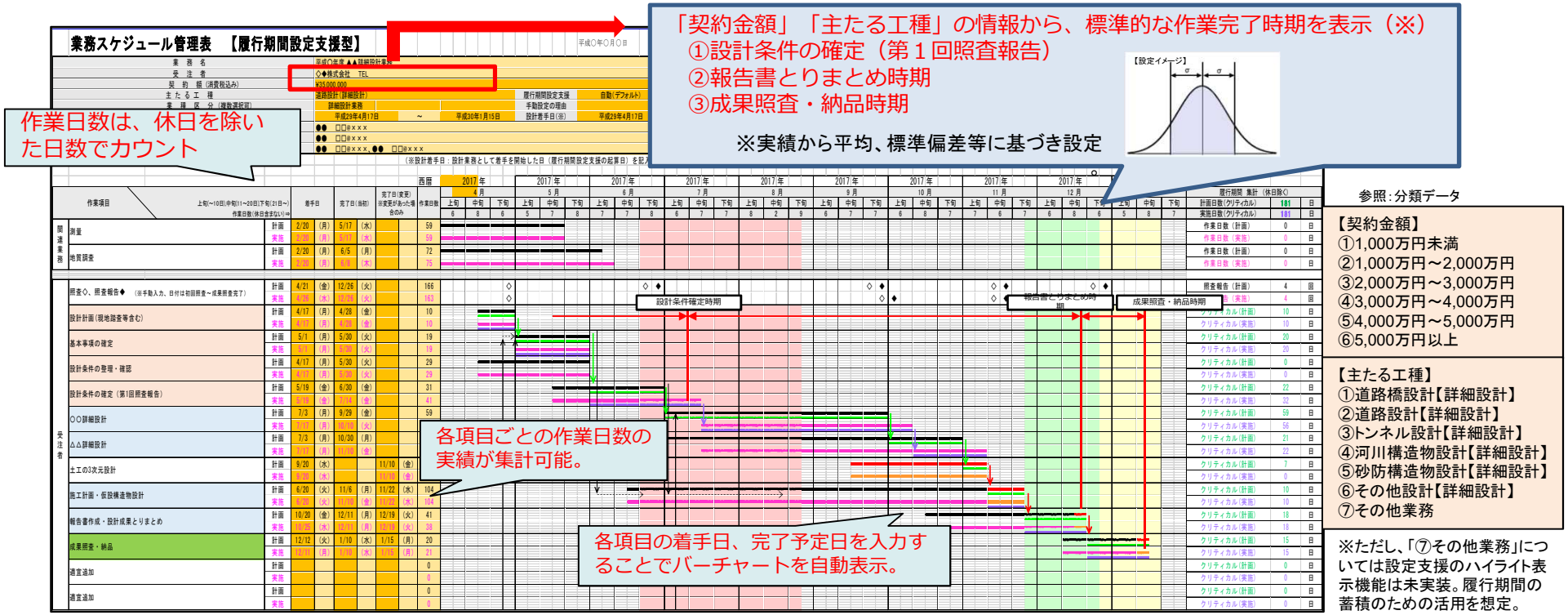
- **業務スケジュール管理表は、業務の進捗状況、懸案事項等について、受発注者が共有し業務を円滑に実施することが目的**です（※業務内容に応じて、必要最小限の項目を設定願います）。
- **この表は記載例であり様式は自由**です。**受注者が作成済の工程管理表を活用**するなど、**作業の簡素化**を図ってください（**様式はExcelデータを開発局ＨＰに掲載**しています）。

国土交通省
北海道開発局

業務スケジュールの適正な管理

管理表（履行期間設定支援型）試行（参考）

- 詳細設計の作業項目について、過去の作業期間に基づき履行期間を設定できる履行期間設定支援ツールを作成（H29～）
- 「契約金額」「主たる工種」から実績に基づく条件確定時期等までの標準的な作業期間を表示
- 本ツールを発注時の履行期間の設定に活用、契約後は業務スケジュール管理表として活用する試行業務を実施
- 蓄積される実績データをさらに分析し、各作業の標準期間の設定支援を改善予定



（※）今回の試行版では、①～③をハイライト表示する機能を具備。次年度以降、実績データに基づき、個々の作業項目毎の標準期間の確認できるよう改善

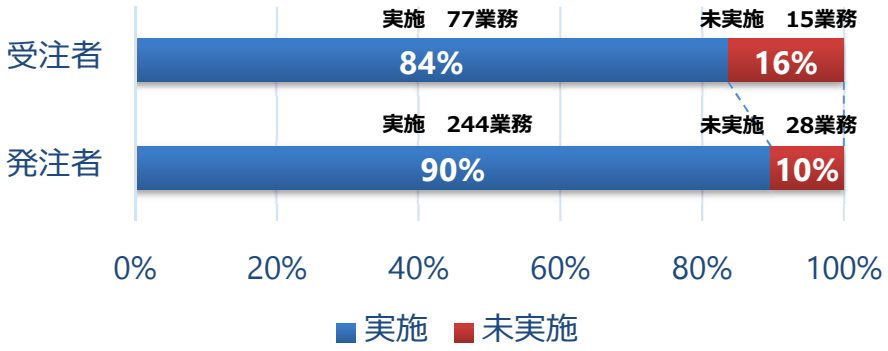
7．アンケート結果（抜粋）　ワンデーレスポンスの徹底

国土交通省

取 組 状 況

設問：ワンデーレスポンスの徹底」の取組は実施されましたか？

- 受発注者ともに、約９割が実施しており、取組の継続を求める意見が多かった。
- 一方で、即日回答が出来ない場合の期限の明示を求める意見も多かった。



（「未実施」の理由）

➢　受注者
・回答期限の明示はされていないが、質問や協議事項等の関係者への共有等はできているものもある。
・業務内容は工程管理が比較的に単純なものであり、回答は適時で十分だった。
・特記仕様書に記載がないため、発注者も知らない（意識がない）のではないか。

➢　発注者
・全てを時間内に実施することは難しい。
・大規模な新規事業で、関連業務が多く互いの決定事項が互いの進捗管理に影響する状況だった。そのため、合同会議を頻繁に行い、ワンデーレスポンスの代替機能とした。
・関係課所への確認に時間を要した。
・単純な測量業務であり、実施することがなかった。

● その他意見

➢　受注者
・重要性や緊急度など、案件毎に濃淡があるため、本取組は特に重要だと思う。
・作業の迅速化や工程の省力化に有効である。
・全てがワンデーである必要はない。いつまでに回答するかワンデーで報告してもらいたい。
・メールと併せてTeams等のアプリを導入し、業務個別のTEAMを作成・運用することで、より効率化等が図られると思うので、積極的に検討して欲しい。
・個人差や出張、外勤等を考慮すると、3日以内等に緩和しても良いのではないか。

➢　発注者
・本取組の実施により、工程や設計変更にも余裕もって対応できるので、今後も継続すべき。
・若い世代への指導の徹底が必要。
・ワンデーを意識するあまり、受注者への回答が雑になっていないか気になる。
・ワンデーレスポンスも重要だが、期限の設定と遵守も重要である。

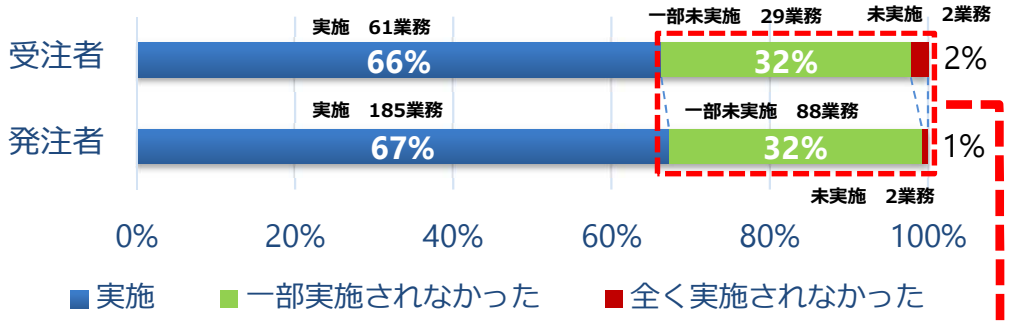
8．アンケート結果（抜粋）　業務環境の改善

国土交通省

取 組 状 況

設問：「業務環境の改善」の実施項目を確実に実施されましたか？

- 受発注者ともに、約７割が実施しており、取組の継続を求める意見が多かった。
- 一方で、ある程度時間外の連絡等は致し方ないという意見のほか、上層組織からの期限に余裕がない依頼のように、発注者の体質改善を求める意見もあった。



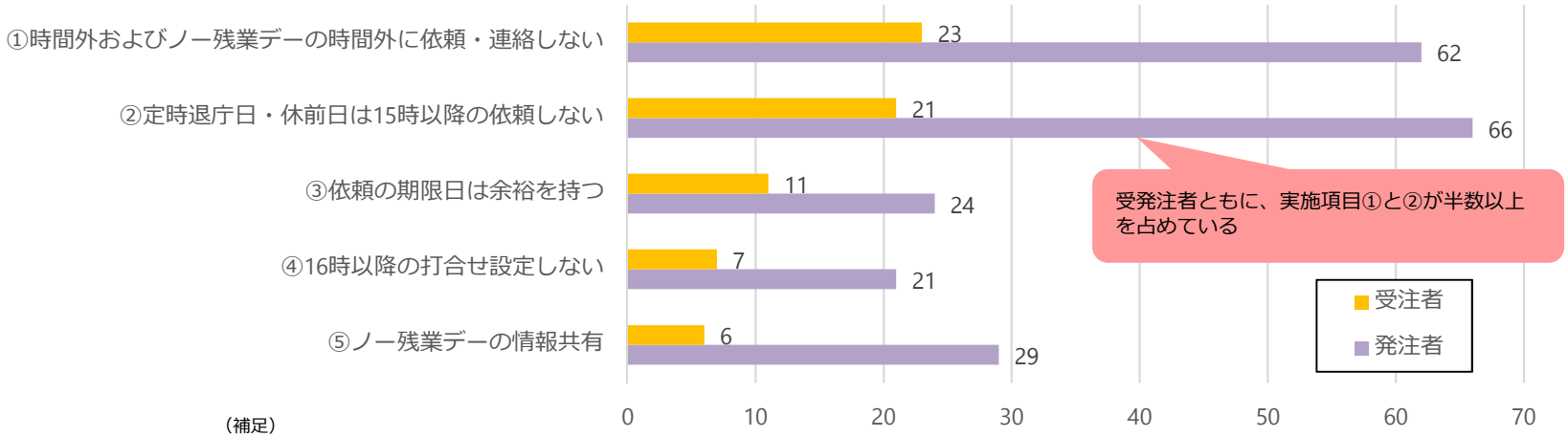
（補足）
・「一部実施されなかった」とは下図①～⑤のいずれかが確認できなかった場合を指す

（「一部実施されなかった」「全く実施されなかった」の理由）

➢ 受注者
- 工事発注のスケジュールに合わせられた。
- 関係機関との協議状況に左右されるため。
- 急ぎの時は受発注者とも時間を気にしていられない。
- 時間外の問合せやメールは、ある程度致し方ない。
- 本省・本局・部局からの無茶なスケジュールの依頼があるため。発注担当者も依頼元にかけあわず、作業内容に応じた期限変更も認めてくれなかった。

➢ 発注者
- 外勤が多すぎて時間内に捌ききれない。
- 工期末が迫っていたため致し方ないと考えた。
- 受注者と時間内に連絡がつかなかったため。
- 上部組織から余裕のない依頼があったため。

実施されなかった事項の内訳（単位：件）



（補足）
・上図は「一部実施されなかった」「全く実施されなかった」と回答した業務の合計値。　・複数回答可としているため、業務件数とは一致しない。

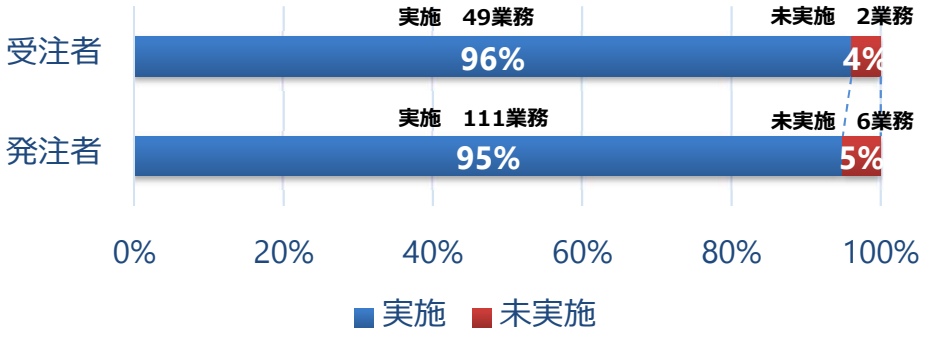
9．アンケート結果（抜粋）　照査の確実な実施

国土交通省

取 組 状 況

設問：「照査の確実な実施」の対象業務でしたか？また、実施されましたか？

- 受発注者ともに、対象業務のほとんどで確実に照査が実施されている。
- 一方で、対象外の業務であっても自主的に照査体制を構築し実施しているなど、照査が確実に浸透していることも確認された。



（その他意見）

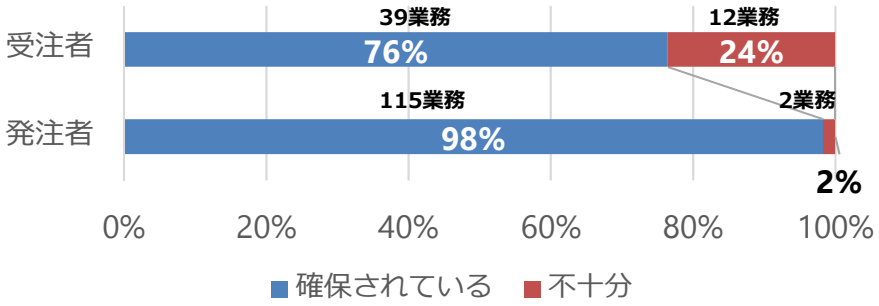
➢　受注者

・会社のISO上、全業務で照査を必須としていることから、負担は感じない。
・照査が品質向上に繋がることに疑う余地はない。照査ができる余裕をもった工程管理が必要。
・環境調査系は、本取組は不要だと思う。
・対象外の業務でも検定時に照査結果を聞かれる。照査技術者を自主配置しているが、矛盾や制度の不備を感じる。

➢　発注者

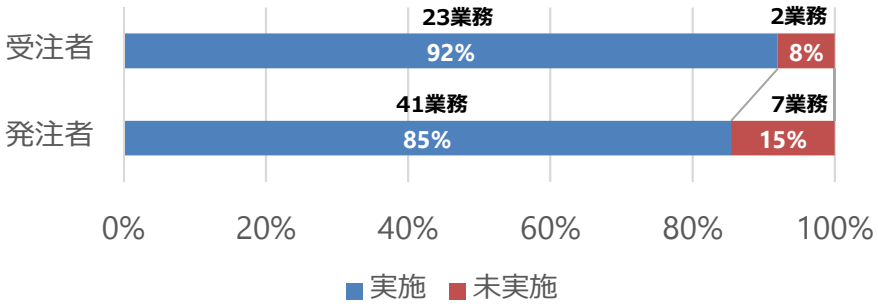
・受注者任せになるのを防止する取組なので継続していきたい。
・品質向上のために必要な取組である。

● 照査期間の確保状況



（「不十分」の理由）

➢　受注者

・関連調査が遅延したため。
・期間内の提出期限が設定されており不足した。
・測量調査との同時発注で道路設計の着手が遅くなった。
・受発注者の問題で条件が決まらない、関係機関協議の遅延等。
・当初の履行期間が短い。

● 赤黄チェックの実施状況